

「世界一住みやすい都市・バンクーバー」での暴動について

ニューヨーク事務所

2011 年 6 月 16 日付けの New York Times によると、その時の様子がこう語られている。
『バンクーバーカナックスがボストンブルーインズに 0-4 で NHL スタンレーカップ決勝第 7 戦（最終戦）に敗れ去った後、バンクーバー市内では、駐車中の車は燃やされ、ひっくり返され、暴徒と化したファンは手に持っていたビール瓶を試合の中継を行っていた大型スクリーンに向かって投げ付けた。

街頭に集まったファンたちは群衆となり罵声を上げ、逆上して火の上を飛び超え、その群衆に警察の機動隊が突入、ごみは散らばり、鼻を突く黒煙があたりに立ち込める。車から立ち上がった炎は 10 メートル近くに達し、野次馬の中にはその炎に向かってファイヤークラッカーを投げるしまつである。試合が終わった瞬間からビール瓶の雨が野外大型スクリーンに降りそそぎ、この混乱は 1994 年、同じくスタンレーカップ最終戦でカナックスがニューヨークレンジャーズに敗れた時の様子を思いださせた。

15 歳のパトリック・フレミング君は、その様子について「何人かが試合の終わった瞬間に怒り出して 2 台の車をひっくり返し、1 台に火をつけたんだ」と話した。他の 2 台はオレンジ色の炎を吹き上げ、恐怖でその場にしゃがみ込む人達もいた。燃え上がる車から立ち上る炎と黒煙のため、前も見えないような危険な場所から逃げだそうとした群衆に機動隊が容赦なく襲いかかった。』

※ 出典 2011/06/16 New York Times

また、2011 年 6 月 17 日付け THE GLOBE AND MAIL には、こんな様子も。
『ブルーク夫人は夫と暴動がおこったすぐ隣の場所に位置するクイーンエリザベス劇場で行われていた「ウィキッド」を観劇していた。ブルーク夫人（32 歳）は、妊娠 5 カ月半で、2 歳の男の子の母親である。以下、夫人の言葉。

劇が始まったのは、アイスホッケーの試合が終わったすぐ 1、2 分後でした。その時は静かで穏やかでした。誰もアイスホッケーの試合のことは気にしていませんでした。劇の休憩時間になった時、劇場の係員がやってきて言いました。「皆さま、外の状況のため、劇場の外へは出ない様にしてください。」それを聞いて私達は凍りつきました。

そして皆窓の方に行き、外を見てみました。それは信じられない光景でした。私達の目の前で何台かの車に火がつけられ、人びとが殴りあったりしていました。どの方向を見ても黒煙しか見えませんでした。私は、自分の席に戻った時、自分が少し震えているのが分かりました。私のおなかの赤ちゃんがこんなに激しく私のおなかを蹴ることは初めてのことでした。多分、私の精神状態を赤ちゃんも感じていたからでしょう。

劇が終わった後、私達は、警察が私達を安全に脱出できる道を確認してくれるまで席に着いているように言われました。誰もが携帯電話で現在の状況を確認していました。私達は一体何が起きているのか全く分かりませんでした。どれほど悪化しているかが分からないということはとても怖いことでした。私達が劇場を離れるときには、道順が詳しく説明されま

した。「右に行ってください。絶対に左に行ってはいけません。」私達の隣にいた 11 歳の女の子を連れていたお父さんは、娘さんから「私達はどうやって家に帰ったらいいの」と聞かれていました。彼は私達を右側の出口に連れて行ってくれました。』

※ 出典 2011/06/17 THE GLOBE AND MAIL

《所感》

上記の 2 つの略訳は、2011 年 6 月 15 日の夜に行われたスタンレーカップ決勝戦の最終戦、地元バンクーバーカナックスがボストンブルーインズに敗れた結果、5 年連続「世界一住みやすい都市」(※英紙エコノミスト評)バンクーバー市内で起こった暴動の一コマである。

私は、このスタンレーカップの開催中、カナダハリファックス市で行われたカナダ自治体連合総会 (FCM) に出席する機会を得た。FCM は政界にも影響力を持つ総会であるが、そこで行われる演説やスピーチの中で、随所にカナックスの話が織り込まれ、公式の演説にも関わらずカナックスのユニホームを着て演台に立つ人までいるのである。

カナダで最も人気のあるプロスポーツは北米プロアイスホッケーリーグである NHL であり、暴動の舞台となったスタンレーカップとは、この NHL の年間覇者を決める最も重要なシリーズである。

カナックスは、スタンレーカップの優勝経験がなく (1994 年にも優勝を逃し、同様の暴動がバンクーバー市内で起こった。)、今回こそ優勝できるというチーム編成で臨み、初優勝にけるバンクーバー市民の意気込みは想像に難くなかった。北米大手ピザチェーン店「ボストンピザ」がカナダブリティッシュ・コロンビア州内の全 62 店舗の店名をスタンレーカップ期間中限定で「ボストンピザ」から「バンクーバーピザ」に名称を変更するなど、そのヒートアップぶりが良く表れている。



そこまでホッケー熱が加熱するわけであるから、もし負ければまた暴動が起こるのではないかと思っていたが、不幸にもそのとおりになってしまった。

日本で人気のプロスポーツと言えば野球、サッカーであろうが、野球の日本シリーズでひいきのチームが負けたからと言って暴動が起きたということは聞いたことがないし、また、サッカーワールドカップの 2002 年日韓大会や 2008 年ドイツ大会で日本代表がベスト 8 を逃しからといっても暴動は起きなかった。

「国民性の違い」と一言で片づけてしまえば簡単であるが、逆に我々にここまでスポーツや趣味に打ち込める情熱があるかというとはなはだ疑問である。

しかしながら、暴動の翌日からバンクーバー市民は自主的に町を片づけ、日常を回復、全世界に向かってお詫びのメッセージを発信するなど、「世界一住みやすい都市」の威信回復のための活動を始めており、すぐにその姿は元どおりの町並みを取り戻すであろう。

(今川所長補佐 警視庁派遣)